

建築系学生奨励事業

第18回 卒業設計コンクール展 開催

埼玉建築設計監理協会の法人化30周年を機に始まった卒業設計コンクール展は、一般社団法人へ移行した協会の主要な活動として位置づけられています。コンクールは、その趣旨に賛同いただいた多くの企業・団体、共催・協賛団体の協力により運営されています。

今年は、改修工事も終わった埼玉会館の展示室を会場に、4月14日(土)から17日(火)迄の4日間にわたり開催されました。9大学34名の力作が会場いっぱいに展示されました。4月16日には上田清司埼玉県知事がご来場になられ、今年から設けられた埼玉県知事賞を受賞した作品を中心に、受賞者と作品について意見交換をされました。埼玉県知事賞、準埼玉賞を受賞した作品については、関連した自治体へのプレゼンテーションや展示を行う予定です。卒業設計での提案を基に、今後、産官学が連携して地域の問題解決や賑わい創出ができることを期待しています。



上田知事と作品について語る出展者

◆開催趣旨

昨今の都市計画や建築デザインに於いても、ICT革命時代にふさわしい斬新な発想が求められている。そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取した意欲ある作品を募集し、若い学生達の考える創造価値と熱意を奨励する。

特に、当協会としては「埼玉」を分析し、再構築を試みることににより街づくりの活性化を図り、地域を変える起爆剤となるような夢溢れる作品を待っています。

◆日程

展示場所	埼玉会館第3展示室	さいたま市浦和区高砂3-14
展示期間	平成30年4月14日(土)	13:00~17日(火) 13:00迄
審査日時	平成30年4月15日(日)	11:00~
表彰式・懇親会	平成30年4月15日(日)	15:50~



受賞者のみなさん



審査風景



懇親会開催



■実施概要

テーマ

地元「埼玉」について積極的に考え、課題を掘り起こした作品を広く募集すると共に、各人の選定した自由テーマとします。

募集作品

(1) 埼玉をテーマとした作品（埼玉県知事賞対象候補）

(2) 自由作品

上記の分類による都市や建築デザインをテーマとした個人作品の卒業設計を対象とします。

出展者は必ず担当教授の承認を得るものとします。

また、会場の都合上、最大展示作品数は35作品とします。

応募多数の場合予備審査を埼玉建築設計監理協会内で行い、結果をお知らせします。

賞について

埼玉県知事賞 1作品…3.(1)の作品の中で最も優れた作品（副賞として海外研修旅行目録・30万円相当）

準埼玉県賞 1作品…3.(1)の作品の中で優れた作品（副賞として5万円相当の目録）

埼玉建築設計監理協会賞 1作品…募集作品の中で最も優れた作品〔埼玉県知事賞受賞作品を除く〕
副賞として海外研修旅行目録・20万円相当）

準埼玉建築設計監理協会賞 1作品…募集作品の中で優れた作品〔埼玉県知事賞受賞作品を除く〕
副賞として5万円相当の目録

<全作品対象>

特別審査員賞 3作品…各大学の先生による審査とします（副賞として3万円相当の目録）

埼玉県住宅供給公社賞 1作品…まちづくりを題材とした作品（副賞として3万円相当の目録）

さいたま住宅検査センター賞 2作品…住宅を題材とした優れた作品（副賞として5万円相当の目録）

JIA 埼玉賞 2作品…優秀な提案、建築家に相応しい作品

〔卒業設計を行った年度の大学学科の所在地が埼玉県内である応募者の中で優れた作品は
本人の意思の確認の上、JIA主催全国学生卒業設計コンクールに2作品程度推薦します。〕

総合資格学院賞 2作品…社会に飛び出す若駒のエネルギーな作品（副賞として5万円相当の目録）

日建学院賞 1作品…来場者の投票により選ばれた作品（副賞として5万円相当の目録）

奨励賞 適宜

審査方法

公開審査で行います。

① 埼玉県知事賞候補作品審査… 第一次審査で選ばれた埼玉県知事賞候補 2 作品による質疑応答を含め 1 人 7 分のプレゼンテーションを行い、審査委員の投票で決定します。

② 埼玉建築設計監理協会賞候補作品審査…埼玉県知事賞を除く全作品の中から2作品による質疑応答を含め 1 人 7 分のプレゼンテーションを行い、審査委員の投票で決定します。

審査員

作品出展校から各学部の先生 1 名、埼玉県（1 名）、さいたま市（1 名）、大手建設業（1 名）

（一社）日本建築学会関東支部埼玉支所（1 名）、（一社）埼玉建築士会（1 名）

（一社）埼玉県建築士事務所協会（1 名）、（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA 埼玉）（1 名）、

（一社）埼玉県建設産業団体連合会（1 名）、埼玉県住宅供給公社（1 名）

（一財）さいたま住宅検査センター（1 名）、当協会賛助会員（1 名）

当協会会員より数名

主 催 （一社）埼玉建築設計監理協会

共 催 （一社）日本建築学会関東支部埼玉支所、（一社）埼玉建築士会、（一社）埼玉県建築士事務所協会
（公社）日本建築家協会埼玉地域会（JIA 埼玉）、（一社）埼玉県建設産業団体連合会
埼玉県住宅供給公社、（一財）さいたま住宅検査センター

協 賛 （一社）埼玉県建設業協会、（一財）埼玉県建築安全協会、総合資格学院、日建学院

後 援 埼玉県 さいたま市 テレビ埼玉

第18回卒業設計コンクール

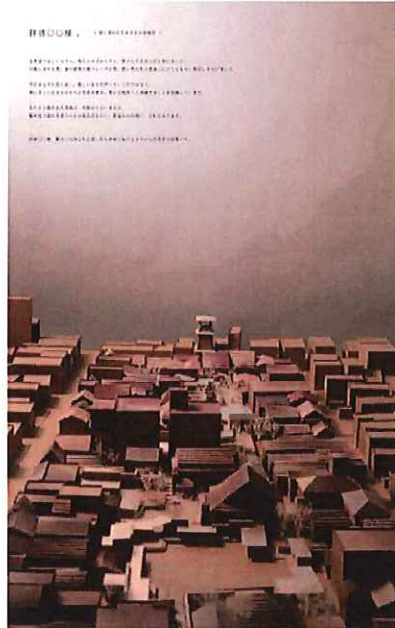
■受賞者ならびに出品者

埼玉県知事賞	外山 純輝	日本大学生産工学部建築工学科 拝啓〇〇様。一時に囲われたあなたの居場所ー
埼玉建築設計監理協会賞 JIA最優秀賞	陰山 愛	日本工業大学工学部生活環境デザイン学科 原風景のレシビ まち保育で生まれる新たな日常
準埼玉賞、JIA優秀賞 さいたま住宅検査センター賞	桐淵 玲央	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 「再誕」ーMemories of Main Shaftー
準埼玉建築設計監理協会賞	池田 光	日本大学生産工学部建築工学科 19000mの慰霊碑 ー空に憧れた少年たちー
特別審査員賞	宮川慎一郎	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 積層する風景 歴史的層性を顕在化させパブリックライフを育む「歴史シンボル通り」の提案
特別審査員賞	吉田将一郎	東京理科大学工学部第二部建築学科 COMPLEX
特別審査員賞	杉本 晴香	工学院大学建築学部建築デザイン学科 川辺の民になる
埼玉県住宅供給公社賞	矢島 俊紀	東京電機大学未来科学部建築学科 根付く居場所
さいたま住宅検査センター賞	井上 博斗	日本工業大学工学部建築学科 ゲストハウスを核とした路地周辺のエリアリノベーション
総合資格学院賞	渡邊 圭悟	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 Active Railway ー見沼田んぼと鉄道のダイアローグー
総合資格学院賞	黒澤 光貴	東洋大学理工学部建築学科 学びのアクアリウム ー大宮の地で見る・体験するー
日建学院賞	加持 翼	東洋大学理工学部建築学科 日本創出物語 ー超短期滞在の家に住もうインバウンドの在り方ー
奨励賞	青木 優里	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 わたしと本のある日々
	石川 達也	芝浦工業大学工学部建築学科 キズキの埒
	長田 久樹	日本工業大学工学部建築学科 釣り人と観光客が織りなす集落ー人と自然をつなぐ宿泊施設ー
	神山 和輝	日本工業大学工学部生活環境デザイン学科 幸手インターラウンジ ー自動車教習所を中心としたコミュニティ拠点ー
	君嶋 海裕	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 みちのホール
	駒澤 直登	東京電機大学理工学部建築都市環境学系 築山 ー都市における清掃工場の提案ー
	櫻本 敦士	工学院大学建築学部建築デザイン学科 結びを織り成す駅 ー終点から広がりを持つ場所へー
	白石 カヤ	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 Feed Forward ー風土を育む建築的災害レジリエンスー
	梶原 彩	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 オフィス街ピクニック ー女性のスタートアップの為の場所を丸の内仲通りにー
	瀬沼 大樹	東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科 麹都への招待
	高田雄大朗	武蔵野美術大学造形学部建築学科 建築がちょっと楽しくなる展示
	高橋 明久	工学院大学建築学部建築デザイン学科 下町の結 ー2つの商店街をつなぐ透間ー
	樋室 皓己	芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 つむぎつなぐ場 ー小倉を魅せる水辺空間の再編ー
	福嶋 佑太	東京理科大学理工学部建築学科 宿場町再復興
	福田早也花	武蔵野美術大学造形学部建築学科 STATION PROJECT NO.6
	藤田 梨沙	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 反転的集合住宅 千葉県柏市豊四季台団地の再生
	本多 希	東京理科大学工学部第二部建築学科 文交結節点 ー都市の記憶を紡ぐ高架下住居ー
	宮岡喜和子	東京電機大学未来科学部建築学科 時、ハコブネ ー家族と、社会をつなぐ、子どもホスビスー
	向佐葉奈子	日本大学生産工学部建築工学科 根づく壁、流れる時、変わらぬ光景
	茂崎 凌子	ものづくり大学技能工芸学部建設学科 Enological Cube
	紋谷 洋子	武蔵野美術大学造形学部建築学科 八王子駅再開発
	若林 真由	日本大学生産工学部建築工学科 湖が結ぶもの

埼玉県知事賞

日本大学生産工学部建築工学科 外山 純輝
 拝啓〇〇様 一時に囲われたあなたの居場所ー

敷地は川越の伝統的建造物群保存地区の一面。
 観光地化に伴い多くのテナントが出店する通り沿いと、その奥にひっそりと暮らす旧来の住民という構図に着目した。保存の対象である街区の表皮には手をつけずに、街区の内部に住民のための施設を新築。街区全体の住民に対するヒアリング調査によってそこに居る人たちの希望を紡ぎ出し、今は無い煉瓦造の防火壁と絡めさせながらそれを実現する提案。



01 計画地 -site-

02 問題提起 -problem presentation-

伝統的な街並みを残しつつ、新しい生活様式を取り入れ、地域の活性化を図る。観光地化に伴い多くのテナントが出店する通り沿いと、その奥にひっそりと暮らす旧来の住民という構図に着目した。保存の対象である街区の表皮には手をつけずに、街区の内部に住民のための施設を新築。街区全体の住民に対するヒアリング調査によってそこに居る人たちの希望を紡ぎ出し、今は無い煉瓦造の防火壁と絡めさせながらそれを実現する提案。

03 街の観察 -observation-

1. 通りを歩くと見えてくる建物の様子 2. 古い建物の内部の様子 3. 古い建物の外観の様子

04 提案 -proposal-



埼玉建築設計監理協会賞 JIA最優秀賞

日本工業大学工学部生活環境デザイン学科 陰山 愛
原風景のレシピ まち保育で生まれる新たな日常

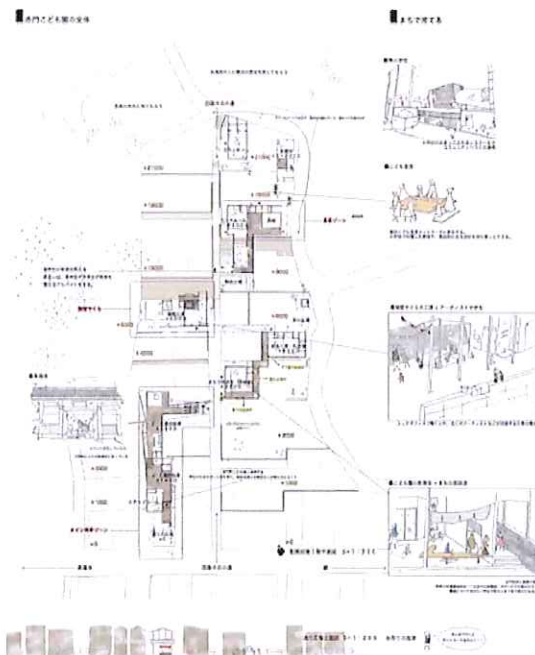
幼い頃の原風景は、いくつになっても無意識にその人を支えています。横浜市の西区と中区にまたがる赤門町にある古くから親しまれている百段々という坂道階段を軸に、まちへ広がることも園を届けます。まちの特徴的な風景体験と魅力的な場のコミュニティを巻き込みながら、まちでこどもを育て、まちも育ていく提案をしています。



原風景のレシピ
まち保育で生まれる新たな日常
1/1000 1/500



新しい風景を創る。いくつになっても無意識にその人を支える
まち保育で生まれる新たな日常
1/1000 1/500



準埼玉賞、JIA優秀賞
さいたま住宅検査センター賞

ものづくり大学技能工芸学部建設学科 桐淵 玲央
「再誕」—Memories of Main Shaft—

パブリックとプライベートの狭間に位置する、行田市かつての商店街の名残がある特定空き家密集地域に、リノベーションという括りで全ての柱を残し、新たな商店街&集合住宅の複合施設として再誕する。これまで空き家の壁内で空間に場を与えていた柱が、隣地の柱や植栽を巻き込み再誕することで、土地の歴史や空間の記憶を建築に刻印する。



準埼玉建築設計監理協会賞

日本大学生産工学部建築工学科 池田 光
19000㎡の慰霊碑 一空に憧れた少年たち—

予科練の歴史が刻まれた霞ヶ浦のほとりに巨大記念碑を設計する。
昭和5年から終戦までの15年間、幼さを残した少年たちは大空に飛び立つことに夢を抱き、日々の厳しい訓練に耐え大きく成長した。彼らは祖国の為に信じ、ある者は戦場で、ある者は特攻隊員として、1万9千人が命を捧げた。
本提案は、この戦争の歴史と悲慘さを空間的に体感させる。写真や資料から学ぶ知識だけではなく、体感する経験として記憶に残し、平和記念館と共に保管する関係を目指す。



特別審査員賞

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 宮川慎一郎

積層する風景

歴史的な重層性を顕在化させパブリックライフを育む「歴史シンボル通り」の提案

近年多くの都市の公共空間における人々の滞留型の活動（パブリックライフ）を増進し、健康的かつ楽しい生活を送ることへの関心が高まっている。本提案は、金沢市の中心である広坂のパブリックライフを多角的な調査によって分析し、その成果に基づいて、広坂に積層する歴史風景を体現した歴史シンボル通りを提案するものである。

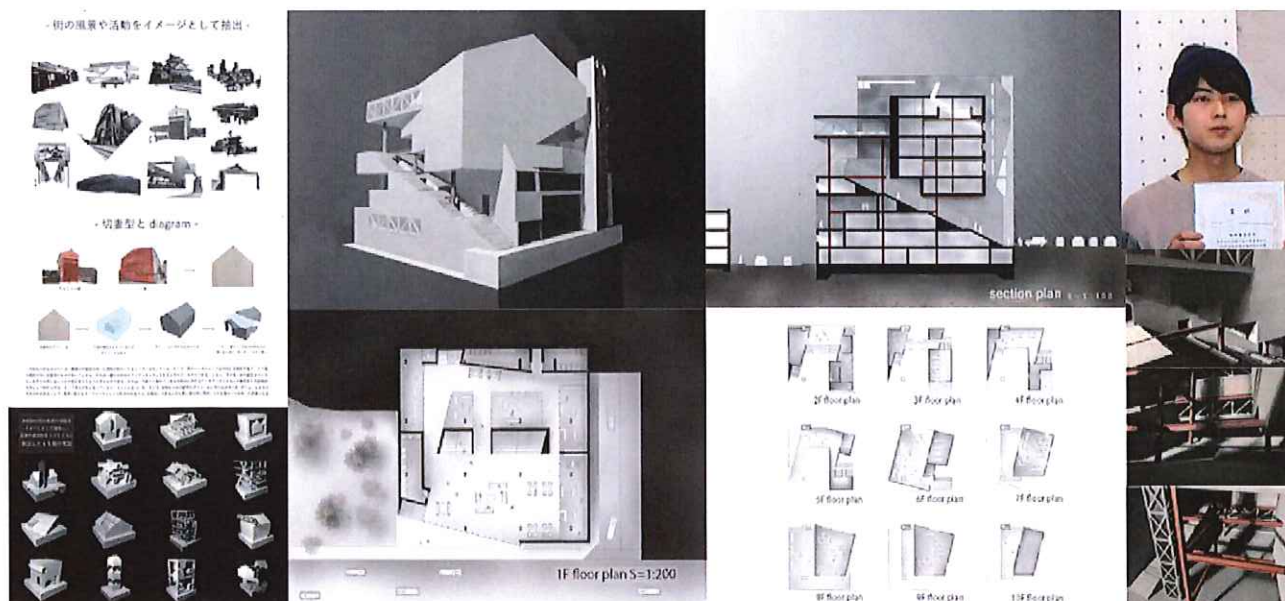


特別審査員賞

東京理科大学工学部第二部建築学科 吉田将一郎

COMPLEX

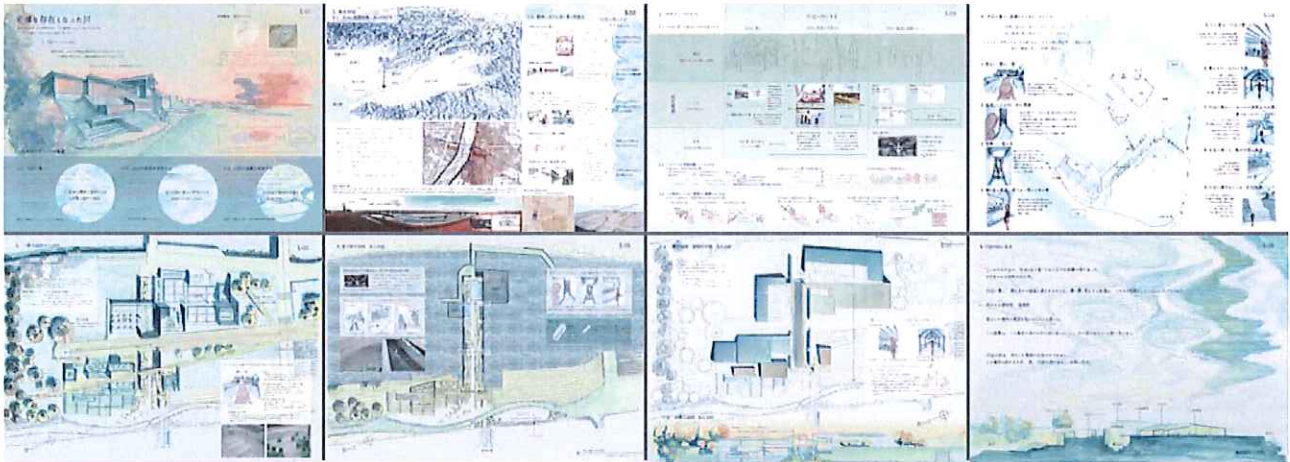
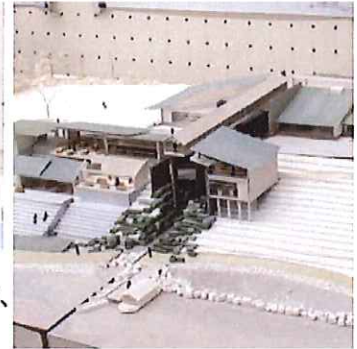
私は設計課題に取り組む時、考えるより先に手が動いてしまう。作ってから、そのものの意味可能性を考える。自分が20年間住んだ街、大阪府岸和田に何か建築を作りたい。そんな漠然としたところからこの卒業設計は始まった。20年住んだことによる感覚的な街の調査と2週間の意識的な調査を通して、岸和田市の風景や活動をイメージとして抽出し、自身の造形的なエゴとともに15個の模型を作成した。それらの模型を観察し、それらを建築に当てはめた時、どういう使い方が可能か、どう形は変わるのか。プログラム、敷地を選定し、それらの要素を複合していくことで建築の設計を行った。



特別審査員賞

工学院大学建築学部建築デザイン学科 杉本 晴香
川辺の民になる

富山県射水市旧大門町、かつてこの街の発展の中心であった庄川のこの川辺は今、治水事業による住宅街の集団退去によって更地となり、その魅力を持て余している。時にその猛威に苦しめられながらも、川の恵みを大いに活用してきたこの地の歴史が、リセットされてしまった。私は人を川辺から引きはがしたようなこの現状に疑問を持った。治水が十分に整った今だからこそできる、この場所に似つかわしい親水空間があるはずではないか。この場所に地域の養殖場やレストランといった機能を集約することで地域住民の地元への誇りを再提示するとともに、この場所が持つ猛威としての川と恵としての川、その2面性を建築の空間体験として見せてゆく。この場所の歴史をもう一度刻み始める建築操作を仕掛ける。川辺の猛威と恵を知り、一度、この場所で、川辺の民になる。



埼玉県住宅供給公社賞

東京電機大学未来科学部建築学科 矢島 俊紀
根付く居場所

東海道の宿場町として栄えた品川区北品川の住民の生活は、高齢化と品川駅周辺の再開発により機能を失いつつある。伝統技術や知識を「新たなカタチ」で次世代に継承し、同時に地域住民の拠り所となつて根付くような建築を計画した。住宅以外の居場所がまちにあるような、これからのパブリックスペースの在り方について提案する。



さいたま住宅検査センター賞

日本工業大学工学部建築学科 井上 博斗
ゲストハウスを核とした路地周辺のエリアリノベーション

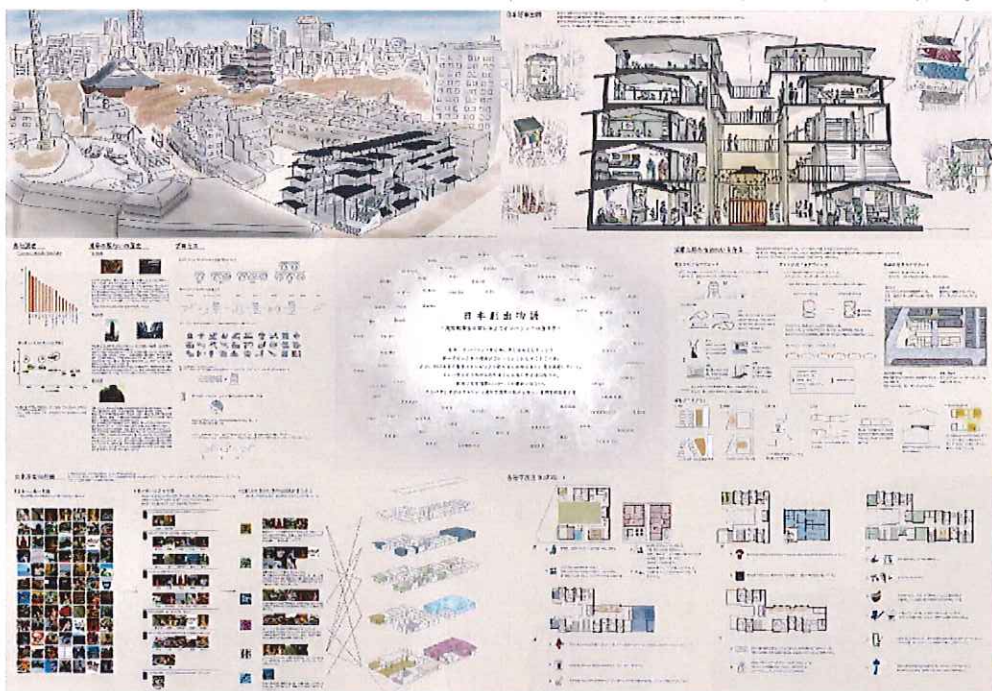
草加駅東口の旧日光街道沿いには、昔からの区画に路地が通り、細分化された建物が密集し、塀によって隣家や周辺との関係が薄い。また、草加の地場産業は衰退しつつある。本計画では各敷地を分断する塀を取り払い、新たな路地とし、既存の路地をつなぐ路地ネットワークを生み出し、エリアをリノベーションする。核となる場合は交流と体験ができるホームステイ型ゲストハウスで1階の内部コモンや地場産業は路地と一体化する。



日建学院賞

東洋大学理工学部建築学科 加持 翼
日本創出物語 ～超短期滞在の家に住もうインバウンドの在り方～

近年、インバウンドが日本に多く訪れるようになり都心ではホテルの建設が目につくようになってきている。だが、2020年の東京オリンピックが終わると同時にホテル業は衰退していく。インバウンドに向けられたホテルの在り方は何なのか。敷地である浅草にはかつての賑わいはない。インバウンドがホテルという場所で新たな賑わいを作る。



総合資格学院賞

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科 渡邊 圭悟
Active Railway ー見沼んぼと鉄道のダイアローグー

首都圏に残る数少ない大規模緑地「見沼んぼ」。その一部であるさいたま市北区に位置する対象敷地は、長い間鉄道によって分断されていた。その敷地にある農地を新規農家や市民とシェアすることで新たな参加者を生み出し、さらに鉄道を生産活動の中心拠点に変えることで鉄道と見沼んぼの対話(=ダイアログ)を創出し、農地と市民生活の新たな相互的関係を創造した。



総合資格学院賞

東洋大学理工学部建築学科 黒澤 光貴
学びのアクアリウム ～大宮の地で見る・体験する～

海に面していない埼玉県は、魚を間近で見て触るなどという機会はこの県に行かない限り出来ない。水族館を設計する上で、「都会の中で緑を感じながら時を過ごしてほしい」となどといったことを意識して設計した。子供だけではなく大人まで楽しめるように設計をして、これがまた大宮の活性化につながっていけばいいのではないかと、と思う。



埼玉県知事賞を受賞して

日本大学 生産工学部 外山純輝

伝統的な街並みを残していく為に、建築物の保存、再生、活用に取り組み、場の価値の向上を図る地域が多くあります。それらの活動により、ある種のブランド性を獲得した地域は観光地としての需要が高まり、地域の活性化に繋がっています。一方で、それまで地域住民が中心であった場が、観光客が中心の場へと変わることによって、元々あった生活が隅へと追いやられる事例は多く、これらの動向によって生まれる街並みに、地域固有の価値が存在しているとは言い難いと私は考えました。本計画の対象地である川越も、その典型にあたると考えます。そこで、卒業設計では地域住民の為の居場所を提案しました。その際、伝統的建築物保存地区ということで、今在るものを取り払い、新しいものを作っていくのではなく、既にそこに在るものたちと生活を繋ぎ、豊かな場所へと再編することを強く意識しました。

無事設計を終え、幾つものコンクールを経ていく中で、「君がやっているのは素人の人間に言われたことをそのまま反映しただけではないのか」という指摘を受けましたが、「使う人と共に作る」というのは、「どんなものが欲しいですか」と聞くことではなく、寄り添い、対話し、日常を観察する中で、「実は必要としているもの」を発見することなのではないかと、今回の卒業設計に取り組む中で感じました。実際、調査を始めた最初のうちは、お話をさせて頂けないまま突き返されることも多々ありましたが、時には一人暮らしのおばあちゃんの家で木を何十本も切り、時には何度もそのお店に食事に行くなど、繰り返し足を運び、親交を深めていく中で、中庭や、土蔵の見学など、生活の内側に入れていただくことができました。地道な作業ではありましたが、その際に伺ったお話からは多くの気づきを得られ、後の設計に大きく影響を与えました。

結果、埼玉県知事賞を受賞するに至り、地域の皆様への報告会を開いた際には多くの方々が集まって下さいました。評価ばかり気にしていても仕方ないとは思いますが、やっぱり誰かに認めていただけるのは嬉しいです。特に本卒業設計コンクール展は、審査員の多くが川越という土地をよく理解されている方ばかりなので、喜びは一入でした。

ここまで来るのに何度も挫けそうになりましたが、それでもめげずに頑張れたのは、指導教官である、篠崎健一先生の厳しくも温かいご指導のお陰であると思っています。設計や研究のみならず、多様な教養を賜りました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。また、最後になりましたが、日本大学生産工学部建築工学科デザインコースにおいて、三年間ご指導を頂きました、泉幸甫先生、亀井靖子先生、木下道郎先生、篠崎健一先生、森山ちひろ先生、橋本緑郎先生、廣田直行先生。建築に専念する環境を与えてくださった父母。自分のことのように相談に乗ってくれた先輩。純輝が一番だと常に背中を押してくれた同期。そして私を受け入れてくれた地域住民の皆様。以上のように、数多くの方々の支えがあり、本設計をまとめるに至りました。何より、寝ずに作業してくれているのにも関わらず、楽しいですよと言って笑ってくれた後輩の皆には、感謝しきれません。長瀬紅梨さん、佐藤裕士郎くん、加藤夏乃さん、水野有人くん、福井優奈さん、河本耀杜くん。皆の存在が不安に押し潰されそうになっていた僕を救ってくれました。本当にありがとう。自慢の後輩達です。

